

公衆衛生Books

天笠崇(著)『救える死：自死のない社会へ』

●新日本出版社(TEL 03-3423-8402), 2011年, 1,500円+税

本書は、タイトルとサブタイトルの示すように、救えるはずの命を救える社会システムを構築するためにはどうしたらいいのか、著者の考えを示そうとしたものです。

わが国はいわゆる「自殺者3万人時代」となって、すでに14年目を数えます。多くの関係者の運動に支えられ、「自殺対策基本法」も制定・施行されました。それから数えても、もう丸5年がたとうとしています。さまざまな取り組みも展開されています。なのに、なぜ自死者は減らないのか。

本書の内容は、特に政策立案者、これまでも自死予防対策に取り組んできた多くの関係者はもちろん、もっと幅広い読者を励ますものになっていると自負しています。自死予防について、これから学ぼうとする読者の海図にもなると思います。

計画停電と、その後の引き続き節電の呼び掛けは全国に広がり、私たちのライフスタイルは、変わりつつあります。本書第4章で述べた、目指すべき社会システムも、実現できる。そう著者に確信を与えてくれています。東北の復興計画の中心に、目指すべき社会システムが、ぜひ組み込まれてほしい。そう強く願っています。

(本書「まえがき」より)

〈目次〉

- 第1章 自死とは——未遂者、遺族の思い
不況、離婚が引き金に／なぜ息子を救えなかったのか
- 第2章 「自殺者3万人時代」vs「自殺対策基本法の時代」
自殺対策基本法とは／「自殺者3万人時代」の原因
- 第3章 メンタルヘルスから見た日本社会の異常
厳しい生活と労働の喪失／ストレス社会日本！
- 第4章 自死予防のために社会のシステムを見直す
予防対策の基本的な考え方／自死を防ぐために税金の使い道を変える

